

3 「7つの政策」の状況

7つの政策の総括

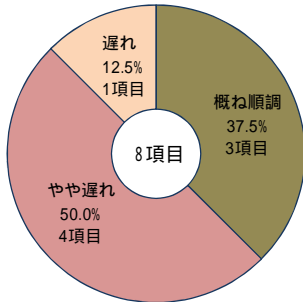
【評価】：「目指す姿」からみた評価が「概ね順調」以上の割合

政策 産業・雇用 【評価:37.5%】

8政策項目中、「食産業の振興」等の3項目が「概ね順調」となっていますが、「商業、サービス業の振興」は「遅れ」となっており、「雇用・労働環境の整備」等の4項目では「やや遅れ」となっています。

「雇用・労働環境の整備」は、「具体的な推進方策」からみた評価では、「順調」・「概ね順調」となったものの、不況が長期化していることや、県民意識調査において就職環境の改善に対するニーズ度が極めて高い状況にあることから、「目指す姿」からみた評価では「やや遅れ」となっています。

【政策項目の状況】

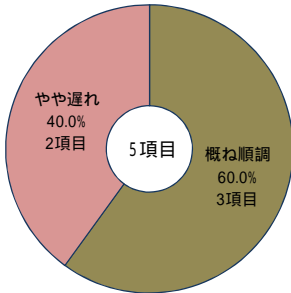


評価	政策項目数	政策項目の名称
順調	0	
概ね順調	3	2 食産業の振興 5 次代につながる新たな産業の育成 7 海外市場への展開
やや遅れ	4	1 国際競争力の高いものづくり産業の振興 3 観光産業の振興 4 地場産業の振興 8 雇用・労働環境の整備
遅れ	1	6 商業、サービス業の振興
計	8	

政策 農林水産業 【評価:60.0%】

5政策項目中、「農林水産物の高付加価値化と販路の拡大」等の3項目が「概ね順調」となっていますが、「農林水産物の未来を拓く経営体の育成」等の2項目では「やや遅れ」となっています。

【政策項目の状況】



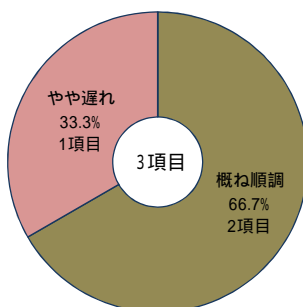
評価	政策項目数	政策項目の名称
順調	0	
概ね順調	3	11 農林水産物の高付加価値化と販路の拡大 12 「いわて」の魅力あふれる農山漁村の確立 13 環境保全対策と環境ビジネスの推進
やや遅れ	2	9 農林水産物の未来を拓く経営体の育成 10 消費者から信頼される「食料・木材供給基地」の確立
遅れ	0	
計	5	

政策 医療・子育て・福祉 【評価:66.7%】

3政策項目中、「地域の保健医療体制の確立」等の2項目が「概ね順調」となっていますが、「家庭や子育てに夢をもち安心して子どもを産み育てられる環境の整備」は「やや遅れ」となっています。

「家庭や子育てに夢をもち安心して子どもを産み育てられる環境の整備」については、「具体的な推進方策」からみた評価では「順調」・「概ね順調」となったものの、子育てと仕事の両立に向けた職場環境の整備や男女が共に家事や育児に取り組む環境づくりなどが進んでいないことから、「目指す姿」からみた評価では「やや遅れ」となっています。

【政策項目の状況】

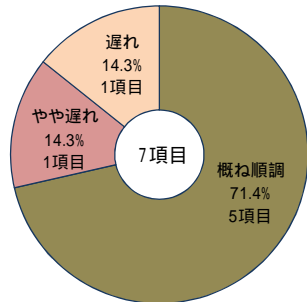


評価	政策項目数	政策項目の名称
順調	0	
概ね順調	2	14 地域の保健医療体制の確立 16 福祉コミュニティの確立
やや遅れ	1	15 家庭や子育てに夢をもち安心して子どもを産み育てられる環境の整備
遅れ	0	
計	3	

政策 安全・安心 【評価:71.4%】

7政策項目中、「地域防災力の強化」等の5項目が「概ね順調」となっていますが、「多様な市民活動の促進」が「遅れ」となり、「男女共同参画の推進」が「やや遅れ」となっています。

【政策項目の状況】

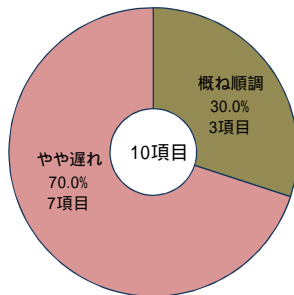


評価	政策項目数	政策項目の名称
順調	0	
概ね順調	5	17 地域防災力の強化 18 安全・安心なまちづくりの推進 19 食の安全・安心の確保 20 多様な主体の連携による地域コミュニティの活性化 22 青少年の健全育成
やや遅れ	1	23 男女共同参画の推進
遅れ	1	21 多様な市民活動の促進
計	7	

政策 教育・文化 【評価:30.0%】

10政策項目中、「家庭・地域との協働による学校経営の推進」等の3項目が「概ね順調」となっていますが、「児童生徒の学力向上」、「文化芸術の振興」等の7項目では「やや遅れ」となっています。

【政策項目の状況】

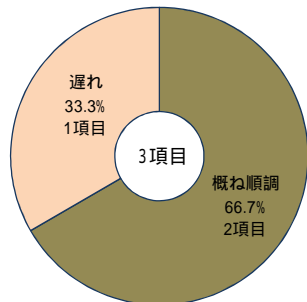


評価	政策項目数	政策項目の名称
順調	0	
概ね順調	3	24 家庭・地域との協働による学校経営の推進 26 豊かな心を育む教育の推進 29 生涯を通じた学びの環境づくり
やや遅れ	7	25 児童生徒の学力向上 27 健やかな体を育む教育の推進 28 特別支援教育の充実 30 高等教育の連携促進と機能の充実 31 文化芸術の振興 32 多様な文化の理解と交流 33 豊かなスポーツライフの振興
遅れ	0	
計	10	

政策 環境 【評価:66.7%】

3政策項目中、「多様で豊かな環境の保全」等の2項目が「概ね順調」となっていますが、「地球温暖化対策の推進」が「遅れ」となっています。

【政策項目の状況】

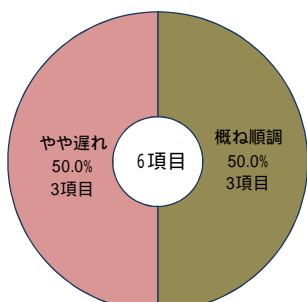


評価	政策項目数	政策項目の名称
順調	0	
概ね順調	2	35 循環型地域社会の形成 36 多様で豊かな環境の保全
やや遅れ	0	
遅れ	1	34 地球温暖化対策の推進
計	3	

政策 社会資本・公共交通・情報基盤 【評価:50.0%】

6政策項目中、「社会資本の維持管理と担い手の育成・確保」等の3項目が「概ね順調」となっていますが、「情報通信基盤の整備と情報通信技術の利活用促進」等の3項目では「やや遅れ」となっています。

【政策項目の状況】



評価	政策項目数	政策項目の名称
順調	0	
概ね順調	3	38 安全で安心な暮らしを支える社会資本の整備 40 社会資本の維持管理と担い手の育成・確保 41 公共交通の維持・確保と利用促進
やや遅れ	3	37 産業を支える社会資本の整備 39 豊かで快適な環境を創造する基盤づくり 42 情報通信基盤の整備と情報通信技術の利活用促進
遅れ	0	
計	6	

7つの政策のまとめ

具体的な記載は、次頁からになります。

「7つの政策のまとめ」の見方

政策
アクションプラン [政策編] における7つの政策ごとに評価内容をまとめています

政策の総括
政策ごとの取組状況や今後の方向などの評価について総括した内容を記載しています
評価は、平成22年11月に実施したものであり、その時点の現状を記載しています

政策項目の状況 (円グラフ)
政策を構成する政策項目について、「順調」「概ね順調」「やや遅れ」「遅れ」の4段階で評価した内容をまとめた円グラフです

評価の判定区分については、P5を参照のこと

政策 環境 - 「環境王国いわて」の実現 -

【基本的考え方】 全国有数の森林資源を有するなど、岩手の地域特性を踏まえた低炭素社会や、3Rを基調とした循環型地域社会が形成されるとともに、良好な環境の保全や自然との共生の取組が活発に行われ、将来にわたって豊かさを実感できるよう、「環境王国いわて」の実現を目指します。

循環型地域社会の形成については、エコショップいわて認定制度や岩手県産業・地域ゼロエミッション推進事業の実施、市町村の取組への助言などにより、ごみの減量、リサイクルの促進の取組は概ね順調に進んでいます。

多様で豊かな環境の保全については、旧松尾鉱山新中和処理施設による坑廃水処理や大気・水環境の監視の取組により、大気・水環境の状況は良好に保たれているほか、イヌワシをはじめとした希少野生動植物の保護事業を進めたことにより、希少野生動植物が生息・生育できる環境が整いつつあるなど、自然との共生の取組も順調に進んでいます。

地球温暖化対策の推進については、温暖化防止いわて県民会議を中核とした全県的な運動を展開し、家庭における省エネの取組の定着を図ったものの、新エネルギーや木質バイオマスエネルギーの導入等が計画どおりに進捗していないこと等から、二酸化炭素の排出削減が進んでいない状況です。

今後は、地球温暖化対策の推進を図るため、家庭における省エネの取組の促進と新エネルギー設備の導入に取り組んでいくとともに、循環型社会の形成をさらに推進するため、県民、市町村等の各主体の3Rの取組を促進し、産業廃棄物の適正処理の徹底と安全・安心な処理体制の構築を図る必要があります。

【政策項目の状況】

評価	政策項目数	政策項目の名称
順調	0	
概ね順調	2	35 循環型地域社会の形成 36 多様で豊かな環境の保全
やや遅れ	0	
遅れ	1	34 地球温暖化対策の推進
計	3	

基本方向
アクションプラン [政策編] における各政策の基本方向を記載しています

政策項目の状況 (一覧表)
政策を構成する政策項目について、「順調」「概ね順調」「やや遅れ」「遅れ」の4段階で評価した内容をまとめた一覧表です

評価の判定区分については、P5を参照のこと

総括
政策を構成する政策項目について、取組状況や課題、今後の方向について記載しています
具体的な記述内容は以下のとおり

(1)取組状況
(2)現状における課題

【総括】

34 地球温暖化対策の推進【遅れ/ニーズ度11位】

(1) 温暖化防止いわて県民会議を中核とした全県的な運動の実施や、身近にできるCO₂ダイエットの普及等を通じて、家庭における省エネの取組の定着を図るとともに、住宅用太陽光発電を中心に新エネルギーの導入促進や、木質バイオマスエネルギーの活用等に努めました。しかし、家庭における省エネの実施率は高いものの、新エネルギーや木質バイオマスエネルギーの導入等が計画どおりに進捗していないこと等により、二酸化炭素の排出量は目標値を下回り、全体として地球温暖化対策の推進は遅れている状況です。

(2) 地球温暖化対策の推進を図るため、家庭における省エネの取組の促進と新エネルギー設備の導入に取り組んでいくとともに、公共施設や産業分野での省エネの取組の活用を図る必要があります。

35 循環型地域社会の形成【概ね順調/ニーズ度36位】

(1) エコショップいわて認定制度や岩手県産業・地域ゼロエミッション推進事業の実施、市町村の取組への助言などによりごみの減量、リサイクルの促進を進めたほか、不適正処理の未然防止、公共圏内の廃棄物処理センターの整備・運営、青森県環境不法投棄廃棄物の撤去などを進めました。これにより、産業廃棄物の最終処分量は目標どおり削減されましたが、新規不法投棄量は減少していない状況にあります。また、一般廃棄物の最終処分量は、減少傾向にあるものの目標には届いていない状況です。

(2) 県民、市町村等の各主体の3Rの取組の促進や循環型社会の形成を推進するビジネス・技術の振興を図るとともに、産業廃棄物の適正処理の徹底と安全・安心な処理体制の構築を図る必要があります。

【参考】.....

【目指す姿指標の状況】

区分	指標数	主な目指す姿指標の名称
達成【A】	4	産業廃棄物最終処分量 県民一人ひとりが自然や野生動植物を大切にしながら生活することに満足している県民の割合 有害大気汚染物質の環境基準達成率 公共用水域のBOD(生物学的酸素要求量)等環境基準達成率
概ね達成【B】	0	
やや遅れ【C】	0	
遅れ【D】	2	二酸化炭素排出量(1990(H2)年比) 一般廃棄物最終処分量
計	6	未確定指標1指標除く。

ニーズ度
平成22年県民意識調査による各政策項目の重要度(平均)から満足度(平均)を差し引いたもの

ニーズ度 = 重要度(平均) - 満足度(平均)

参考 (円グラフ)
各政策項目に掲げている「目指す姿指標」の達成度について「A：達成」「B：概ね達成」「C：やや遅れ」「D：遅れ」の4段階で評価した内容をまとめた円グラフです

指標の達成度
A：目標値の100%以上
B：80%以上100%未満
C：60%以上80%未満
D：60%未満

参考 (一覧表)
各政策項目に掲げている「目指す姿指標」の達成度について「A：達成」「B：概ね達成」「C：やや遅れ」「D：遅れ」の4段階で評価した内容をまとめた一覧表です

指標の達成度
A：目標値の100%以上
B：80%以上100%未満
C：60%以上80%未満
D：60%未満

達成【A】 4
概ね達成【B】 0
やや遅れ【C】 0
遅れ【D】 2
計 6

政策 産業・雇用 ～「産業創造県いわて」の実現～

【基本的考え方】岩手の多彩な資源と知恵を生かした産業、地域や分野を越えた産業が展開されるとともに、一人ひとりの能力や、やる気を生かした雇用が確保されるなど「産業創造県いわて」の実現を目指します。

食産業の振興、海外市場の展開については、円高による影響等により外国人観光客数が伸び悩んでいます。食産業クラスターの形成や農工商連携の促進により、多数の新商品がマーケットに投入されたほか、流通におけるコストダウンが図られ、また、海外市場の展開にあっては、海外事務所を拠点とした海外ビジネス展開支援や平成22年5月の上海万博を契機に中国向けの輸出額が増加しており、概ね順調に進んでいます。

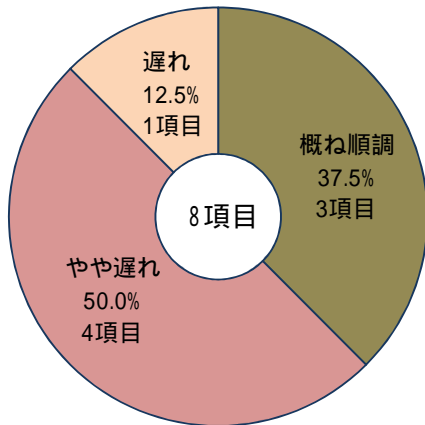
また、次代につながる新たな産業の育成についても、地域イノベーション指針の策定により、産学官が連携した次世代産業の創出に向けた道筋が共有され、概ね順調に進捗しています。

ものづくり産業、観光産業、商業・サービス業の振興については、自動車・半導体及び医療機器関連産業を中心とする「連峰型の産業集積」の形成や平成20年に発生した地震被害からの復興、商店街の活性化やまちづくりの取組への支援などに取組んでいます。依然として低迷している国内外の景気の影響を受け、施策の効果が十分に表れておらず、やや遅れている状況です。

また、雇用・労働環境については、産業振興施策及び基金を活用した緊急雇用創出事業等による雇用の場の創出が概ね計画どおり進み、求人不足数等の状況には改善の傾向が見られますが、低迷する景気の影響を受け、求職者を取り巻く雇用情勢は依然として厳しく、就職環境の改善に対する県民ニーズは非常に高い状況にあることから、やや遅れている状況です。

今後は、本県の産業を牽引する自動車・半導体産業の早期の業況回復の促進とそれに次ぐ医療機器関連産業の育成、平泉文化遺産の世界遺産登録やデスティネーション・キャンペーンを契機とした中長期的な観光力の強化など産業振興施策を更に積極的に展開するとともに、厳しい雇用・労働環境の改善に向け、ジョブカフェいわてを中心とした若年者支援や中小企業の雇用力強化の取組を展開し、本県経済の活性化をより一層強力に推進していく必要があります。

【政策項目の状況】



評価	政策項目数	政策項目の名称
順調	0	
概ね順調	3	2 食産業の振興 5 次代につながる新たな産業の育成 7 海外市場への展開
やや遅れ	4	1 国際競争力の高いものづくり産業の振興 3 観光産業の振興 4 地場産業の振興 8 雇用・労働環境の整備
遅れ	1	6 商業、サービス業の振興
計	8	

【総括】

1 国際競争力の高いものづくり産業の振興【やや遅れ/ニーズ度 6 位】

- (1) 自動車・半導体及び医療機器関連産業を中心とする「連峰型の産業集積」の形成に向けて、「育てる」、「創る」、「誘致する」、「人材育成」などの視点による総合的な支援施策を推進しており、川上・川下企業のネットワーク構築、地場企業の競争力強化、企業立地の進展など、県の取組は着実に進捗していますが、不況の長期化等の影響により、平成 21 年度においても、ものづくり産業の業況は低調のまま推移しています。
- (2) 世界同時不況の影響により、ものづくり産業の製造品出荷額等は大きく悪化しましたが、厳しい経済情勢に対応する足腰の強い産業構造の確立のため、自動車・半導体及び医療機器関連産業を中心とする「連峰型の産業集積」の形成、優れたものづくり人材の育成、雇用受皿の拡大等に向けた取組を推進する必要があります。

2 食産業の振興【概ね順調/ニーズ度 24 位】

- (1) 県の取組状況としては、中核企業等の重点密着支援、食産業クラスターの形成、農商工連携等の促進の 3 つの推進方策に取り組み、多数の新商品がマーケットに投入されたほか、流通におけるコストダウンが図られるなどの成果をあげています。「食料品製造出荷額」は伸びが止まり、前年とほぼ横ばいとなりましたが、県の支援や食品事業者等の積極的な事業活動等により、厳しい状況下にあっても堅調に推移しているものと考えられます。
- (2) 食産業の更なる発展を図るためには、企業のコスト削減や“岩手の地域資源を生かした商品づくり”などの取組に対する支援を継続するとともに、さらに「食の安全・安心」及び原動力となる人材の育成を図る必要があります。

3 観光産業の振興【やや遅れ/ニーズ度 28 位】

- (1) JR 東日本や首都圏等の旅行会社の協力を得た「いわて・平泉観光キャンペーン」の展開、観光資源の掘り起こしやブラッシュアップ、人材育成、情報発信、受入態勢整備等の取組に加え、平成 20 年に発生した地震の風評被害からの回復や E T C

割引等の効果により、県外観光客数及び県外宿泊者数が増加しており、県の取組は着実に進捗しています。一方で、新型インフルエンザの流行や円高による来日費用の増大等が影響し、外国人観光客数は対前年比9.7%減の8.9万人となっています。

- (2) 新型インフルエンザや景気の低迷といった逆風の中にあって、目指す姿を実現するため、平泉文化遺産の世界遺産登録やいわてDCを契機とした取組や、県北沿岸部の中核観光となる観光素材の確立に向けたマーケティングの指導、県内外への情報発信等を促進する必要があります。

4 地場産業の振興【やや遅れ/ニーズ度24位】

- (1) 物産展や見本市、伝統工芸品の展示販売会を開催したものの、物産展等を開催する百貨店の経営状況による開催回数の減少等の影響から、事業者の出展者数は減少傾向にあり、また、事業者の経営状況の厳しさから、新商品の企画・開発等の主体的な取組は遅れている状況です。
- (2) 目指す姿の実現には、事業者の経営向上を図るため、首都圏等において物産展や展示販売会を継続して開催し、業界を営業面で活性化していく必要があります。また、新たな販路を開拓するため、事業者の国内外の商談会や見本市等への出展を促す必要があります。

5 次代につながる新たな産業の育成【概ね順調/ニーズ度6位】

- (1) 地域イノベーション指針の策定により、県以外の実施主体と次世代産業分野創出へ向けた道筋を共有するとともに、取組成果について評価を行いながら、取組の方向性の検証・見直しを行う仕組みを構築し、医療機器の開発支援や海洋バイオ研究など、県の取組は順調に進んでいる状況です。なお、不況の長期化等の影響により製造業における従業員一人当たりの粗付加価値額は目標に達していない状況ですが、取組成果が指標に反映されるには一定の期間を要すると見込んでいます。
- (2) 新たな産業の創出へ向け、有望な研究シーズの発掘・育成や研究開発資源の効果的な配分を行っていくため、県以外の実施主体と方向性を共有した一体的な取組が必要です。

6 商業、サービス業の振興【遅れ/ニーズ度5位】

- (1) 経営革新に取り組む中小企業や商店経営者、まちづくり団体への支援などを計画どおりに行っており、商業者・サービス業者の育成・支援や商店街活性化に対する県の支援は順調に推移していますが、県内経済の低迷や消費者の選択の多様化などの影響によって、これらの取組が目指す姿指標の達成にはつながっていない状況です。
- (2) 全国的に厳しい経済環境や激しい競争が続く中、県内の商業・サービス業を活性化するためには、地域住民のニーズに的確に応える商品やサービスの提供を行おうとする意欲的な商業者やサービス業者を重点的に支援するとともに、これまで商店街が担ってきた住民生活に不可欠なインフラである地域の商業機能の確保に向けた地域ぐるみの取組を支援する必要があります。

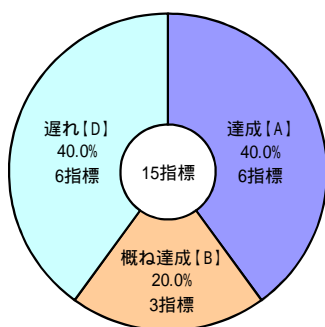
7 海外市場への展開【概ね順調／ニーズ度 42 位】

- (1) 海外事務所の積極的活用による県内企業の海外展開支援、民間の輸出コーディネーターを活用した県産農林水産物の輸出促進等の取組により、中小企業等の海外ビジネス展開や県産品・農林水産品の販路拡大に成果が現れており、南部鉄器の輸出も、平成 21 年 5 月の上海万博への出展を契機に輸出額が増額しています。一方で、新型インフルエンザの流行、円高による来日費用の増大等の社会情勢が影響し、外国人観光客数が伸び悩んでいます、県の取組は「概ね順調」に進んでいる状況です。
- (2) 引き続き県内企業の海外展開のために、海外事務所やジェット口盛岡、中小機構との連携など、多様な支援策を講じていく必要があります。また、外国人観光客の誘致に係る景気低迷や新型インフルエンザなどの外部環境要因に対しては、中長期的な観光力の強化として、北東北三県などの広域的な連携、共同事業などの取組が必要です。

8 雇用・労働環境の整備【やや遅れ／ニーズ度 1 位】

- (1) 国の交付金を財源として造成した基金による緊急雇用創出事業等の推進により雇用創出に取り組んだほか、企業への正規雇用拡大の働きかけ、ジョブカフェ等による若年者の就業支援などを進め、雇用・労働環境に係る県の取組は順調に推移しているところですが、県民意識調査における就職環境の改善に対するニーズ度が極めて高いことなどから、「やや遅れ」の状況となっています。
- (2) 雇用環境の改善のため、雇用創出の取組や若年者、離職者への就業支援等を引き続き推進する必要があります。

【参考】.....
 【目指す姿指標の状況】



区分	指標数	主な目指す姿指標の名称
達成【A】	6	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食料品製造出荷額 ・ 伝統産業に係る製造品出荷額 ・ 求人不足数 ・ 県北・沿岸圏域の求人不足数 ・ 正規雇用求人不足数 ・ 新規高卒就職者 1 年目離職率
概ね達成【B】	3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県外観光客数 ・ 製造業における製造品出荷額に占める粗付加価値額の割合 ・ 東アジア地域への輸出額
やや遅れ【C】	0	
遅れ【D】	6	<ul style="list-style-type: none"> ・ ものづくり関連分野（輸送機械、半導体製造装置、電子部品、デバイス等）製造品出荷額 ・ 製造業に就職した者の県内割合（新規高校卒） ・ 県外宿泊者数 ・ 外国人観光客数 ・ 製造業における従業員一人当たりの粗付加価値額 ・ 卸売・小売業の県内総生産（実質）の対前年度比
計	15	

政策 農林水産業 ～「食と緑の創造県いわて」の実現～

【基本的考え方】本県の地域経済社会を支え、持続的に発展できる農林水産業と、いきいきとした農山漁村を確立し、生産者や消費者がその豊かさ・恵みを実感できる「食と緑の創造県いわて」の実現を目指します。

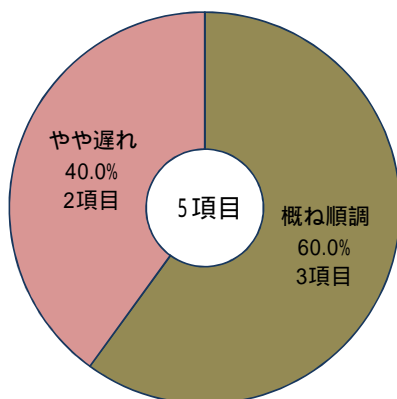
農林水産物の高付加価値化については、民間ノウハウを活用した6次産業化や農商工連携、多様な販売チャネルの確立による販路の拡大に取り組んでおり、概ね順調です。また、環境保全に配慮した生産活動等については、環境保全型農業の実践活動への支援など、環境に配慮した農林水産業の推進や、森林資源を活用した排出量取引などの新たな環境ビジネスの創出が着実に進んでおり、概ね順調です。

経営体の育成については、就農相談会やマッチングの支援等により、農林漁業への新規就業者が増加傾向にあるなど、多様な担い手の確保に向けた取組に成果が見られますが、地域の農林水産業の核となる担い手の経営管理能力のレベルアップや経営規模の拡大による生産の効率化といった面での成果が十分に得られておらず、やや遅れている状況です。

「食料・木材供給基地」の確立については、消費者や市場のニーズに対応した安全・安心で高品質な農林水産物の生産の拡大に取り組んでいるものの、景気の低迷による価格の低迷のほか、生産者の減少などの影響により、産出額等が伸び悩んでおり、やや遅れている状況です。

今後は、持続的に発展できる農林水産業の構築に向け、戸別所得補償制度など国の制度を活用しながら、経営の高度化や生産の効率化を進め、高い所得を安定的に確保できる経営体の育成に重点的に取り組むとともに、生産性・市場性の高い産地づくりの推進や、6次産業化等による安全・安心で高品質な商品の開発等に取り組む必要があります。

【政策項目の状況】



評価	政策項目数	政策項目の名称
順調	0	
概ね順調	3	11 農林水産物の高付加価値化と販路の拡大 12 「いわて」の魅力あふれる農山漁村の確立 13 環境保全対策と環境ビジネスの推進
やや遅れ	2	9 農林水産業の未来を拓く経営体の育成 10 消費者から信頼される「食料・木材供給基地」の確立
遅れ	0	
計	5	

【総括】

9 農林水産業の未来を拓く経営体の育成【やや遅れ/ニーズ度7位】

- (1) 関係機関・団体等と一体となった総合的な経営指導・支援による認定農業者及び集落営農組織の育成、地域森林経営プランの実行支援による地域けん引型林業経営体の育成並びに地域営漁計画の更新・実行支援等による中核的な養殖漁業経営体の育成のほか、耕作放棄地解消など経営資源の有効かつ効率的な利用に取り組んでいますが、「地域農業の核となる経営体の育成」「地域の森林経営を担う経営体の育成」「経営資源（生産基盤）の有効かつ効率的な活用」の取組がやや遅れています。
- (2) 意欲と能力のある経営体の育成に重点的に取り組むとともに、経営資源の有効活用などによる一層の生産性の向上を図る必要があります。

10 消費者から信頼される「食料・木材供給基地」の確立【やや遅れ/ニーズ度23位】

- (1) 消費者や市場のニーズに対応した、安全・安心で高品質な農林水産物の生産の拡大に向けて取り組んでおり、「高度な技術開発の促進」「産地づくり推進体制の確立」については順調に進んでいますが、「全国トップレベルの『安全・安心産地』の形成」「生産性・市場性の高い産地づくりの推進」「多様なニーズに対応した供給体制の確立」については、やや遅れています。
- (2) 消費者や市場のニーズに対応した、本県らしい安全・安心で高品質な農林水産物の生産拡大と、生産性・市場性の高い産地づくりを一層進めていく必要があります。

11 農林水産物の高付加価値化と販路の拡大【概ね順調/ニーズ度26位】

- (1) 市町村や団体等と連携し、民間ノウハウを活用しながら農林水産業の6次産業化や農商工連携に取り組んでいるほか、安全・安心で高品質な商品の開発促進等による農林水産物の高付加価値化、多様な販売チャネルの確立と積極的な情報発信等による販路の拡大に取り組み、概ね順調に進んでいます。また、地域や企業等との協働による県産食材の利用の拡大など、地産地消の拡大にも取り組んでいます。
- (2) 6次産業化等による県産農林水産物のブランドの確立と販路の拡大に向けて、生産者等へのきめ細かな指導・支援や、プレミアム商品等の開発・販売によるブランド化などに取り組む必要があります。

12 「いわて」の魅力あふれる農山漁村の確立【概ね順調/ニーズ度27位】

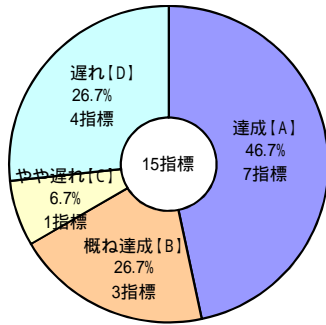
- (1) グリーン・ツーリズム受入体制の強化やアグリビジネス経営体の育成に取り組んでいるほか、地域協働による環境保全活動等への支援や農山漁村における快適な生活環境の整備と防災対策に取り組み、概ね順調に進んでいます。
- (2) 農山漁村の活性化を図るため、多様なグリーン・ツーリズム等の展開を図るとともに、地域協働による環境や地域資源の保全を進める必要があります。

13 環境保全対策と環境ビジネスの推進【概ね順調/ニーズ度10位】

- (1) 環境保全型農業の実践活動の支援など、環境に配慮した農林水産業の推進や、森林資源を活用した排出量取引などの新たな環境ビジネスの創出に取り組み、概ね順調に進んでいます。
- (2) 環境保全型農業や森林整備等に対する県民理解の醸成を図るとともに、豊富な森林資源を活用した排出量取引等を一層促進する必要があります。

【参考】.....

【目指す姿指標の状況】



区分	指標数	主な目指す姿指標の名称
達成【A】	7	<ul style="list-style-type: none"> ・先導的な地域けん引型林業経営体数 ・林業産出額 ・漁業生産額 ・6次産業化による販売額 ・水産加工業生産額 ・農地や農業用水などの保全活動に取り組む地区数 ・森林資源を活用した排出量取引等によるCO2削減に取り組む事業者数
概ね達成【B】	3	<ul style="list-style-type: none"> ・認定農業者数 ・集落型の農業経営体数 ・グリーン・ツーリズム交流人口
やや遅れ【C】	1	<ul style="list-style-type: none"> ・環境保全型農業実践者数
遅れ【D】	4	<ul style="list-style-type: none"> ・中核的な養殖漁業経営体数 ・農業産出額 ・プレミアム商品の販売額 ・うち体験型教育旅行受入人数
計	15	

政策 医療・子育て・福祉 ～「共に生きるいわて」の実現～

【基本的考え方】子どもから高齢者まで、また、病気や障がい等の有無に関わらず、それぞれの力を生かし、共に助け合いながら、いきいきと暮らすことができる「共に生きるいわて」の実現を目指します。

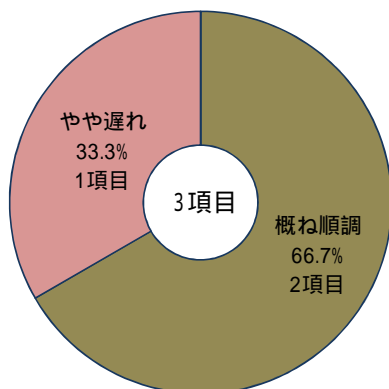
地域の保健医療体制の確立については、医師の養成・招聘やクリティカルパスの導入などの取組が概ね順調に進んだものの、医師の地域偏在、診療科偏在など地域医療の確保や、全国上位にある自殺死亡者数（人口10万人当たり）を減らす全県的な取組の強化について、課題が残されている状況です。

家庭や子育てに夢をもち安心して子どもを産み育てられる環境の整備については、周産期医療情報体制の整備をはじめ、地域子育て支援拠点の整備や保護を要する児童、ひとり親家庭等への支援などの県の取組は概ね順調に進んだものの、子育てと仕事の両立に向けた職場環境の整備や男女が共に家事や育児に取り組む環境づくりなどが進んでいないことから、やや遅れている状況です。

福祉コミュニティの確立については、市町村の地域福祉計画策定支援、介護サービスの充実や障がい者の地域生活移行の促進などの取組が概ね順調に進んでいます。

今後は、医師の絶対数を確保し、地域偏在や診療科偏在の改善と病院勤務医の定着に向けて取り組むほか、より効果的な自殺対策、社会全体で子育てを支えるために仕事と子育ての両立を支援する企業の取組や男性の家事・育児への参加促進などに力を入れて取り組む必要があります。

【政策項目の状況】



評価	政策項目数	政策項目の名称
順調	0	
概ね順調	2	14 地域の保健医療体制の確立 16 福祉コミュニティの確立
やや遅れ	1	15 家庭や子育てに夢をもち安心して子どもを産み育てられる環境の整備
遅れ	0	
計	3	

【総括】

14 地域の保健医療体制の確立【概ね順調／ニーズ度4位】

- (1) 医師の養成・招聘などの「医療を担う人づくり」、クリティカルパスの導入などの「質の高い医療が受けられる体制の整備」、新型インフルエンザ対策などの「感染症対策の推進」、地域保健と職域保健の連携推進などの「生活習慣病予防等の推進」の推進方策が「概ね順調」に進み、自殺多発地域におけるモデル事業などの「こころの健康づくりの推進」が「順調」に進んでいる状況です。
- (2) 医師の絶対数確保に引き続き取り組みながら、切れ目のない医療提供体制の整備、救急医療体制の充実など地域医療の確保に向けた総合的な取組を着実に進める必要があります。

また、それぞれの特性に応じた感染症対策、健(検)診実施率の向上や啓発活動の実施などの生活習慣病予防対策、市町村における積極的な自殺対策を進める必要があります。

15 家庭や子育てに夢をもち安心して子どもを産み育てられる環境の整備【やや遅れ／ニーズ度3位】

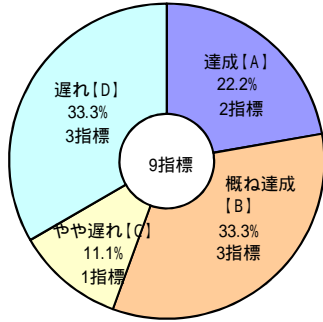
- (1) 若者の結婚や家庭づくりを支援する出会い・交流の場の提供などの「結婚や子育てに夢を持てる意識の啓発」、周産期医療情報体制の整備などの「安全・安心な出産環境の充実」、企業による子育て世帯優待制度の推進などの「多様な子育て支援活動の充実」が「順調」に進み、地域子育て支援拠点の整備などの「仕事と子育ての両立支援の充実」、ひとり親家庭の自立支援などの「保護を要する児童、ひとり親家庭等への支援」など県の取組は「概ね順調」に進んでいます。一方で、子育てと仕事の両立に向けた企業の取組が進んでいないことなどから、社会全体で子育てを支援する地域づくりは、「やや遅れ」ている状況にあります。
- (2) 子育てを行政や企業・団体、地域が一体となって社会全体で支えるため、仕事と子育てが両立できる職場環境の整備や男女が共に家事や育児に取り組む環境づくりなどをまず第一に推進していく必要があります。

16 福祉コミュニティの確立【概ね順調／ニーズ度2位】

- (1) 市町村の地域福祉計画策定支援や福祉を担う人材の育成などの「住民参加と住民主体による生活支援の仕組みづくり」、介護サービスの充実などの「高齢者が住み慣れた地域で生活できる環境の構築」、障がい者の地域生活移行の促進などの「障がい者が地域で自立した生活ができる環境の構築」、地域の福祉マップづくりの促進などの「安全・安心のセーフティネットづくり」の全ての推進方策が「概ね順調」に進んでいる状況です。
- (2) 県民だれもが、身近な地域社会で、年齢や性別、心身の障がいの有無に関わらず、安心して生活できる福祉コミュニティづくりを進めるために、身近な場所におけるワンストップの総合相談窓口の設置や総合的な支援が受けられる体制の整備、ひとにやさしいまちづくりの推進、地域包括ケアの推進、障がい者の地域生活への移行を促進する取組などを進める必要があります。

【参考】.....

【目指す姿指標の状況】



区分	指標数	主な目指す姿指標の名称
達成【A】	2	<ul style="list-style-type: none"> がん、脳血管疾患及び心疾患で死亡する女性の数（人口10万人当たり） 居宅介護・地域密着型サービス利用割合
概ね達成【B】	3	<ul style="list-style-type: none"> がん、脳血管疾患及び心疾患で死亡する男性の数（人口10万人当たり） 合計特殊出生率 施設等から地域生活に移行する障がい者数
やや遅れ【C】	1	<ul style="list-style-type: none"> 一般事業主行動計画策定率（従業員50人以上中小企業）
遅れ【D】	3	<ul style="list-style-type: none"> 救急患者における軽症患者の割合 自殺死亡者数（人口10万人当たり） 女性の家事労働時間に対する男性の家事労働時間の割合
計	9	未確定指標1指標除く。

政策 安全・安心 ~「安心して、心豊かに暮らせるいわて」の実現~

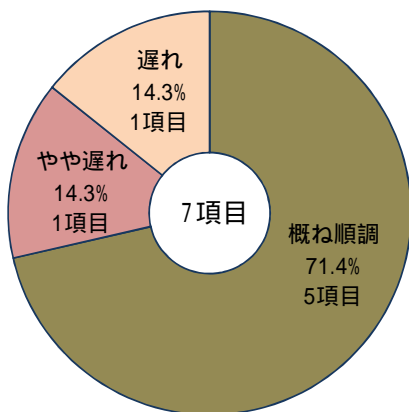
【基本的考え方】多発する自然災害に対する防災力の強化や犯罪のないまちづくりの推進、食の安全の確保などに取り組むとともに、地域コミュニティの活性化や市民活動の促進、次代を担う青少年の育成、男女共同参画の推進など、「安心して、心豊かに暮らせるいわて」の実現を目指します。

地域防災力の強化、安全・安心なまちづくりの推進及び食の安全・安心の確保については、鍵かけの徹底や食品表示の改善など一部の取組に遅れは見られるものの、実践的な訓練などによる地域防災力や地域防犯力強化の取組、食育普及啓発キャラバンの実施など普及啓発の取組などにより、概ね順調に進んでいます。

多様な市民活動の推進、男女共同参画の推進については、市民活動を促進するための支援機能の充実や男女共同参画をリード・サポートする人材育成などに取り組んだものの、市民活動参加率や男女共同参画サポーターに占める男性割合が伸び悩んでいるなど、市民活動等に参加しやすい環境づくりはやや遅れている状況です。

今後は、引き続き自主防災組織の育成強化など地域の防災力や防犯力の強化、自主衛生管理の手法（HACCP等）の導入など食の安全確保への取組を着実に進めていくとともに、市民活動に関係するNPO等の組織運営力の向上、情報誌の発行等による情報提供や普及啓発などにより、市民活動に参加しやすい環境づくりに重点的に取り組む必要があります。

【政策項目の状況】



評価	政策項目数	政策項目の名称
順調	0	
概ね順調	5	17 地域防災力の強化 18 安全・安心なまちづくりの推進 19 食の安全・安心の確保 20 多様な主体の連携による地域コミュニティの活性化 22 青少年の健全育成
やや遅れ	1	23 男女共同参画の推進
遅れ	1	21 多様な市民活動の促進
計	7	

【総括】

17 地域防災力の強化【概ね順調 / ニーズ度 34 位】

- (1) 地域防災力の強化を図るため、各種啓発事業や自主防災組織の育成強化、実践的な訓練による防災対応力の強化に努めましたが、一部の市町村の取組に遅れが見られ、自主防災組織率は目標を下回りました。津波学習教材の利用市町村数や、図上訓練コントローラー養成数は、目標を達成している状況です。
- (2) 災害に対する正しい知識の普及啓発や自主防災組織の育成指導を担う市町村の支援などを重点的に行い、「自助」「共助」「公助」それぞれの分野のレベルアップを図る必要があります。

18 安全・安心なまちづくりの推進【概ね順調 / ニーズ度 15 位】

- (1) 県民の防犯意識の向上や地域の防犯力の強化のため、安全安心まちづくり運動期間における重点的な広報啓発、地域の自主防犯団体活動への支援、防犯リーダー養成研修などを実施しましたが、平成 21 年の無施錠による侵入窃盗事件が増加し、自主防犯団体数が減少しており、引き続き、安定的な地域の防犯活動を促進していくことが求められています。
なお、平成 22 年上半期の侵入窃盗事件の状況は、前年に比較して 18 件の減少となっていますが、無施錠による被害率は、50.4%と依然として高い状況にあります。
- (2) 鍵かけの徹底などの県民の防犯意識の向上を進め、防犯活動への参加の働きかけや活動への理解を深めるほか、地域における消費者施策の充実、交通事故防止対策を推進する必要があります。

19 食の安全・安心の確保【概ね順調 / ニーズ度 21 位】

- (1) 食の信頼性の確保については、食品表示専門員などにより食品表示の適正化に向け指導・監視の取組を進め、適正表示率の低い店舗における改善率は改善したものの目標には届いていない状況です。食育の推進においては、食育普及啓発キャラバンの実施や食育実践活動発表会などの普及啓発に取り組み、食育推進計画を策定する市町村も順調に増加している状況です。
- (2) 食の信頼性の確保に向け、引き続き適正表示・衛生管理に関する指導と普及に努めるとともに、食育の推進のため、普及啓発による県民・事業者の理解の促進を図っていく必要があります。

20 多様な主体の連携による地域コミュニティの活性化【概ね順調 / ニーズ度 18 位】

- (1) 地域におけるリーダーとなる人材の育成のためのセミナーの開催や、元気なコミュニティ 100 選団体の選定と優良事例の紹介、県政懇談会の開催などを行い、地域コミュニティの活性化に努めたところですが、県民生活基本調査の結果から、これらの活動への参加の意識は低い状況にあります。
県外からの定住者数は、岩手ファンの獲得に向けた積極的な情報発信、積極的に取り組む市町村の育成、市町村等と連携した相談対応等に努めたことにより、目標を達成しています。

(2) 集落機能の維持など地域コミュニティにおける課題を把握するとともに、それぞれの課題に対応した支援を検討していく必要があります。

また、定住・交流の促進については、岩手の魅力の発信を今後も継続するとともに、定住交流希望者のニーズを把握し、きめ細かな対応をする必要があります。

21 多様な市民活動の促進【遅れ / ニーズ度 39 位】

(1) NPO・ボランティア活動の情報発信などの「市民活動を促進するための支援機能の充実」の推進方策が「やや遅れ」、情報誌の発行などの「協働のノウハウ・仕組み定着のための情報提供・普及啓発」が遅れている状況です。

(2) NPO・ボランティア活動の情報提供、新しい公共の担い手として重要な役割を果たすNPOの組織運営力の向上を図るとともに、今後の施策展開の方向性、具体の取組を検討し、市民活動に参加しやすい環境づくりを推進する必要があります。

22 青少年の健全育成【概ね順調 / ニーズ度 33 位】

(1) 「いわて若者サポートステーション事業」、「ニート対策事業」、「若者いきいき就労体験事業」などの相談事業を開始し、ニート対策に重点的に取り組んでいます。若者サポートステーションでは、ニート等の相談件数が昨年度より減少し、個性・主体性を尊重した「人づくり」の取組は遅れている状況です。また、健全な青少年をはぐくむ「地域づくり」については、親学参加者数が少なかったことにより、取組状況はやや遅れとなっています。青少年を事件・事故から守る「環境づくり」については、講座を各広域局圏で実施するなど順調に取組が進められています。

(2) 高度情報化、消費社会化等が進行し、青少年を取り巻く環境に大きく影響が及んでいる中で、青少年の非行、不登校、虐待、ニートなどといった様々な問題が深刻化していることから、いわて青少年育成プランに基づき、地域づくりの主体として岩手の将来を担う青少年の健全育成を更に進めていく必要があります。

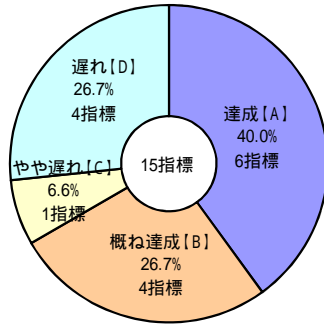
23 男女共同参画の推進【やや遅れ / ニーズ度 30 位】

(1) サポーター養成講座の実施により男女共同参画をリード・サポートする人材育成を行っていますが、男性の参加者が伸び悩んでいるほか、平成 21 年度新規に実施したサポーターのステップアップを支援するサポーター上級講座については、市町村等に対する広報・宣伝が遅れたこともあり、取組がやや遅れている状況です。一方、ワーク・ライフバランスのセミナー等の開催による仕事と家庭・地域生活を両立できる環境づくりの推進や、配偶者からの暴力防止対策のため、相談員の資質向上を目指した研修の実施については順調に取組が進められています。

(2) 男女共同参画社会の推進に向け、いわて男女共同参画プランに基づき、男女共同参画を推進する人材の養成、仕事と家庭・地域生活の両立に向けた環境づくり、配偶者からの暴力防止対策に取り組む必要があります。

【参考】.....

【目指す姿指標の状況】



区分	指標数	主な目指す姿指標の名称
達成【A】	6	<ul style="list-style-type: none"> 人口10万人当たりの犯罪発生件数 年間交通事故死者数 消費生活相談体制が確立された市町村割合 HACCPシステム導入率 県外からの定着者数(年間) いわて希望塾参加者数(累計)
概ね達成【B】	4	<ul style="list-style-type: none"> 自主防災組織の総数における地域コミュニティ防災組織比率 3歳児の朝食欠食率 メディア対応能力養成講座参加者がいる市町村の割合 市町村の男女共同参画計画の策定率
やや遅れ【C】	1	<ul style="list-style-type: none"> 自主防災組織の組織率
遅れ【D】	4	<ul style="list-style-type: none"> 犯罪の被害に遭わないための行動をしている人の割合 市民活動参加率 審議会等における女性委員の比率 DVに関する周知度
計	15	

政策 教育・文化 ～「人材・文化芸術の宝庫いわて」の実現～

【基本的考え方】学校教育の充実、社会教育、生涯学習、スポーツの振興や国際交流の推進などにより、将来の岩手を担う人材を育成するとともに、多彩な本県の文化芸術をはぐくみ、創造・継承することで、「人材・文化芸術の宝庫いわて」の実現を目指します。

家庭・地域との協働による学校経営の推進、豊かな人間性をはぐくむための教育の充実については、すべての学校で目標達成型の学校経営に取り組んでいるとともに、小学校と中学校の不登校児童生徒の出現率が低下するなど、概ね順調に進んでいます。

児童生徒の学力向上、健やかな体をはぐくむ教育に向けた取組については、授業改善の推進と家庭学習の充実、「岩手っ子体力アップ運動」の推進などに取り組みましたが、学習定着度状況調査の結果が目標としている指標に到達していなかったり、運動する子どもとそうでない子どもの二極化が見られるなど、やや遅れている状況です。

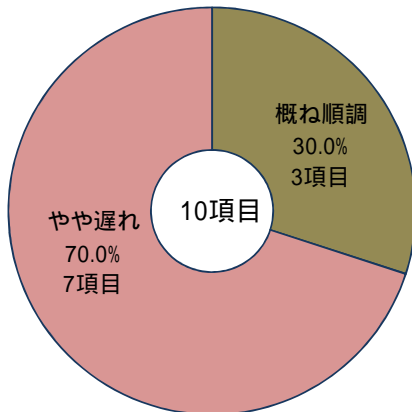
文化芸術の振興については、「平泉の文化遺産」の世界遺産登録や伝統芸能等の伝承、文化芸術情報の発信などに取り組みましたが、民俗芸能ネットワーク加盟団体数が伸び悩むなど、やや遅れている状況です。

豊かなスポーツライフの振興については、平成28年に開催予定の岩手国体等に向けた選手強化に取り組んでいますが、国民体育大会天皇杯得点順位が目標に達しておらず、やや遅れている状況です。

今後は、引き続き学校経営の取組内容の質的な向上に取り組むとともに、児童生徒個々の学力に応じた授業力の向上、教育振興運動と連携した家庭学習の習慣化、児童生徒の学校不適応等の早期発見・早期対応、体力向上や肥満防止などに重点的に取り組む必要があります。

また、「平泉の文化遺産」をはじめとする歴史遺産や伝統文化の情報発信の充実、素質あるジュニア選手の発掘・育成等による中長期的な視点に立った選手強化などに取り組んでいく必要があります。

【政策項目の状況】



評価	政策項目数	政策項目の名称
順調	0	
概ね順調	3	24 家庭・地域との協働による学校経営の推進 26 豊かな心を育む教育の推進 29 生涯を通じた学びの環境づくり
やや遅れ	7	25 児童生徒の学力向上 27 健やかな体を育む教育の推進 28 特別支援教育の充実 30 高等教育の連携促進と機能の充実 31 文化芸術の振興 32 多様な文化の理解と交流 33 豊かなスポーツライフの振興
遅れ	0	
計	10	

【総括】

24 家庭・地域との協働による学校経営の推進【概ね順調 / ニーズ度 40 位】

- (1) 家庭・地域との協働による目標達成型の学校経営に取り組む学校の割合は引き続き 100%を維持しており、取組の質の更なる向上に取り組んでいる状況です。
- (2) 学校経営の取組内容の質的な向上と保護者等への周知・理解、家庭・地域との協働を一層進め、この取組について更なる県民の理解を図っていくことが必要です。

25 児童生徒の学力向上【やや遅れ / ニーズ度 12 位】

- (1) 「学習指導要領の改訂に伴う教育課程の編成」、「地域・産業界と連携したキャリア教育の推進」は概ね順調に進んでいます。一方、「授業改善の推進と家庭学習の充実」は授業と連動した課題の出し方や家庭学習時間が十分とは言えず、「数学（算数）・英語の学力向上」は、推進方策の指標である「英語検定のそれぞれの級レベルの英語力を身に付けている生徒の割合」の 2 指標がいずれも目標値を下回っており、順調とは言えません。
- (2) 児童生徒一人ひとりの基礎的な学習の定着、各地域における教員の自主的研修の場の拡大、授業と連動した家庭学習の取組、効果的な授業改善策の策定と早期実施、地域、産業界と連携した組織的・系統的なキャリア教育の取組が必要です。

26 豊かな心を育む教育の推進【概ね順調 / ニーズ度 9 位】

- (1) 他の模範となる活動を表彰し児童生徒の向上心をはぐくんだり、全小中学校でボランティア活動等に取り組むほか、岩手の先人・歴史・郷土を理解する教育の推進や、学習指導要領の改訂に合わせ道徳教育教材の作成を行うなど心の教育の充実を図るとともに、家庭・地域と協働し、児童生徒の自立心や人間関係を形成できる能力の育成を図っています。また、学校不適応対策にも重点的に取り組み、小学校と中学校の不登校生徒の出現率は低下しました。

- (2) 高校生の読書者率の向上、児童生徒の多様な状況に対応しながら、学校不適応の未然防止・早期対応等の教育相談事業の充実や、効果的な道德教育の取組を進める必要があります。

27 健やかな体を^{はぐく}む教育の推進【やや遅れ/ニーズ度 31 位】

- (1) 「岩手っ子体力アップ運動」の実施率は目標に達していないものの、家庭生活面も含めた運動機会の拡大、習慣化を図る取組や、体育実技アシスタントの派遣など体育の授業力向上に向けた取組により、児童の体力向上の取組は着実に進んでいます。
- (2) 教員の体力授業力向上、児童生徒への意識付け、運動機会の確保や望ましい生活習慣の確立に向けて取り組んでいく必要があります。

28 特別支援教育の充実【やや遅れ/ニーズ度 22 位】

- (1) 特別支援学校の分教室の設置により障がいのある児童生徒を受け入れる教育の場を拡充したほか、特別支援教育支援員を学校に配置して障がいのある児童・生徒の学習を支援し、さらに特別支援教育ボランティア養成講座の開催により県民の理解増進を図るなど、県の取組は着実に進んでいます。一方で、市町村における支援員の配置がまだ十分ではなく、学校での個別の指導計画の策定も遅れている状況にあります。
- (2) 市町村における中学校段階での受入れ、「個別の指導計画」の作成率向上、県民理解の増進、関係機関や企業等と連携した就労支援が必要です。

29 生涯を通じた学びの環境づくり【概ね順調/ニーズ度 32 位】

- (1) 県民一人ひとりが、学びたいことや学ぶ必要があることを自分に適した手段や方法で継続的に学び、そこで学んだ成果が地域に還元されるような仕組みづくりに取り組んでおり、概ね順調に進んでいます。
- (2) 多様な学習活動を支援する環境の整備、家庭の教育力向上に向けた行政や地域全体による支援、地域住民が積極的に地域の課題解決に取り組めるような仕組みづくりが必要です。

30 高等教育の連携促進と機能の充実【やや遅れ/ニーズ度 35 位】

- (1) 地域社会を支える人材の育成支援や高等教育機関相互の連携に対する支援、産学官連携への支援を進めました。しかし、大学教育改革支援プログラムの採択数が増加していないとともに、特許等出願件数が減少傾向にあるなど、推進方策の取組状況はやや遅れている状況です。
- (2) 地域に求められる人材育成や地域課題研究を含む教育研究の地域還元等のために、県と高等教育機関との連携を一層深める必要があります。

31 文化芸術の振興【やや遅れ／ニーズ度 38 位】

(1) ホームページを中心に本県の文化芸術情報を県内外に発信したほか、郷土芸能の調査・記録、県内 4 広域圏での文化芸術ネットワークの設置に向けた取組などを行いましたが、ホームページのアクセス件数の減少やネットワークの設置が 1 地域に止まるなど、取組は遅れている状況です。

また、世界遺産登録や伝統芸能等の伝承に向けた各種取組を着実に実施したほか、財団法人岩手県文化振興事業団の協力により文化振興基金の助成制度を充実させる取組などを行いましたが、公立文化ホール利用率、「平泉の文化遺産」の世界遺産に向けた取組の認知度、民俗芸能ネットワーク加盟団体数が目標に達していないなど、取組が成果に表れているとは言えない状況です。

(2) 岩手の文化芸術情報の発信、文化芸術に関するコーディネートサービスの提供、助成制度の周知、「平泉の文化遺産」をはじめとする歴史遺産や伝統文化の情報発信、民俗芸能伝承のための取組を促進する必要があります。

32 多様な文化の理解と交流【やや遅れ／ニーズ度 43 位】

(1) 平成 22 年 2 月に「岩手県多文化共生推進プラン」を策定し、本県の多文化共生の総合的な目標や施策の方向を定めました。また、国際交流センターの運営や(財)岩手県国際交流協会への補助を通じて、外国人が暮らしやすい環境づくりに取り組んだほか、留学生への支援などでネットワーク形成に努めました。しかしながら、多文化共生の理念の浸透が十分に図られていないことや長期的な取組が必要な方策もあることから、やや遅れの状況になっています。

(2) 情報提供や人材育成の充実、県民に対する多文化共生意識の醸成による相互理解の促進、ネットワークの形成のための留学生等との関係の維持などが必要となっています。

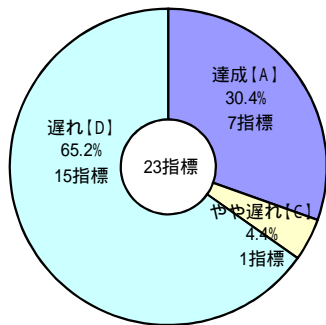
33 豊かなスポーツライフの振興【やや遅れ／ニーズ度 41 位】

(1) 総合型地域スポーツクラブの創設などを通じたスポーツの環境づくり、平成 28 年岩手国体等に向け、中長期的な視点に立った選手育成や指導者養成の推進、スポーツ医・科学サポート体制の充実に取り組んでおり、県の取組は概ね順調に進んでいます。一方で、産業経済界の取組は、県と連携した競技力向上に課題を有している状況です。

(2) だれもが気軽にスポーツに親しめる環境づくり、中長期的な視点に立った選手強化、スポーツ医・科学サポート体制の充実に引き続き取り組んでいく必要があります。

【参考】.....

【目指す姿指標の状況】



区分	指標数	主な目指す姿指標の名称
達成【A】	7	<ul style="list-style-type: none"> 家庭・地域との協働による目標達成型の学校経営に取り組む学校の割合 学習定着度状況調査における定着の分布の状況(小5・算数)[分布の範囲] 学習定着度状況調査における定着の分布の状況(中2・数学)[分布の範囲] 各学校が設定した進路目標を達成した学校の割合(高等学校) 児童生徒の読書者率(中2) 公開講座受講者数(累計) 国際交流サポーター登録者数
概ね達成【B】	0	
やや遅れ【C】	1	<ul style="list-style-type: none"> 地域や学校などで行われている文化芸術(芸術、まつり、行事など)の鑑賞や活動に満足している県民の割合
遅れ【D】	15	<ul style="list-style-type: none"> 学習定着度状況調査における定着の分布の状況(小5・算数)[中央値] 学習定着度状況調査における定着の分布の状況(中2・数学)[中央値] 学習定着度状況調査における定着の分布の状況(中2・英語)[分布の範囲] 学習定着度状況調査における定着の分布の状況(中2・英語)[中央値] 児童生徒の読書者率(小5) 児童生徒の読書者率(高2) 「体力・運動能力調査」の総合評価D・E段階の児童の割合(小学6年) 肥満傾向児の割合(小学校6年) 特別支援学校の対象児を在籍させる小・中学校の割合 特別支援学級の対象児を通常の学級に在籍させる小・中学校の割合 特別支援学校の高等部卒業生のうち一般就労を希望する者の就労達成率 大学教育改革支援プログラム採択数(累計) 本県の歴史遺産や伝統文化に誇りや愛着を持つ県民の割合 スポーツ実施率 国民体育大会天皇杯得点順位
計	23	未確定指標3指標除く。

政策 環境 ～「環境王国いわて」の実現～

【基本的考え方】全国有数の森林資源を有するなど、岩手の地域特性を踏まえた低炭素社会や、3Rを基調とした循環型地域社会が形成されるとともに、良好な環境の保全や自然との共生の取組が活発に行われ、将来にわたって豊かさを実感できるよう、「環境王国いわて」の実現を目指します。

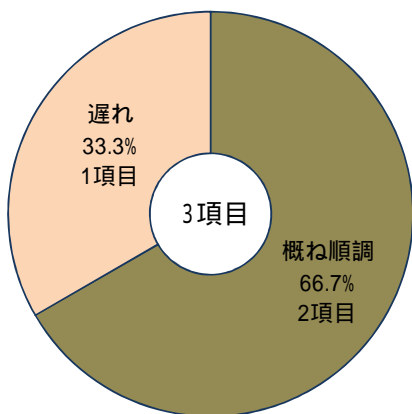
循環型地域社会の形成については、エコショップいわて認定制度や岩手県産業・地域ゼロエミッション推進事業の実施、市町村の取組への助言などにより、ごみの減量、リサイクルの促進の取組は概ね順調に進んでいます。

多様で豊かな環境の保全については、旧松尾鉱山新中和処理施設による坑廃水処理や大気・水環境の監視の取組により、大気・水環境の状態は良好に保たれているほか、イヌワシをはじめとした希少野生動植物の保護事業を進めたことにより、希少野生動植物が生息・生育できる環境が整いつつあるなど、自然との共生の取組も順調に進んでいます。

地球温暖化対策の推進については、温暖化防止いわて県民会議を中核とした全県的な運動を展開し、家庭における省エネの取組の定着を図ったものの、新エネルギーや木質バイオマスエネルギーの導入等が計画どおりに進捗していないこと等から、二酸化炭素の排出削減が進んでいない状況です。

今後は、地球温暖化対策の推進を図るため、家庭における省エネの取組の促進と新エネルギー設備の導入に取り組んでいくとともに、循環型社会の形成をさらに推進するため、県民、市町村等の各主体の3Rの取組を促進し、産業廃棄物の適正処理の徹底と安全・安心な処理体制の構築を図る必要があります。

【政策項目の状況】



評価	政策項目数	政策項目の名称
順調	0	
概ね順調	2	35 循環型地域社会の形成 36 多様で豊かな環境の保全
やや遅れ	0	
遅れ	1	34 地球温暖化対策の推進
計	3	

【総括】

34 地球温暖化対策の推進【遅れ/ニーズ度 11 位】

- (1) 温暖化防止いわて県民会議を中核とした全県的な運動の実施や、身近にできるCO₂ダイエットの普及等を通じて、家庭におけるエコライフの定着を図るとともに、住宅用太陽光発電を中心に新エネルギーの導入促進や、木質バイオマスの導入支援に努めました。しかし、家庭における省エネの実施率は高いものの、費用の負担を伴う新エネルギーや木質バイオマスエネルギーの導入等が計画どおり進捗しないこと等により、二酸化炭素の排出量は目標値を下回り、全体として地球温暖化対策への取組は遅れている状況です。
- (2) 地球温暖化対策の推進を図るため、家庭における省エネの取組の促進と新エネルギー設備の導入に取り組んでいくとともに、公共施設や産業分野での木質バイオマスエネルギーの利用拡大を図る必要があります。

35 循環型地域社会の形成【概ね順調/ニーズ度 36 位】

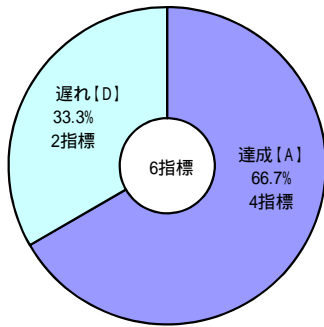
- (1) エコショップいわて認定制度や岩手県産業・地域ゼロエミッション推進事業の実施、市町村の取組への助言などによりごみの減量、リサイクルの促進を進めたほか、不適正処理の未然防止、公共関与の廃棄物処理センターの整備・運営、青森県境不法投棄廃棄物の撤去などを進めました。これにより、産業廃棄物の最終処分量は目標どおり削減されましたが、新規不法投棄量は減少していない状況にあります。また、一般廃棄物の最終処分量は、減少傾向にあるものの目標には届いていない状況です。
- (2) 県民、市町村等の各主体の3Rの取組の促進や循環型社会の形成を推進するビジネス・技術の振興を図るとともに、産業廃棄物の適正処理の徹底と安全・安心な処理体制の構築を図る必要があります。

36 多様で豊かな環境の保全【概ね順調/ニーズ度 20 位】

- (1) 自然災害や気象等の影響から、自然公園利用者数や水生生物調査参加者数などが伸びなかったものの、大気・水環境の状態は良好に保たれ、自然との共生の取組も順調に進むなど、豊かな環境の保全については概ね順調な状況です。
- (2) 本県の豊かな環境の保全のため、引き続き水環境の保全・希少野生動植物の保護などに取り組むほか、自然公園の利用や水生生物調査などを通じた自然とのふれあいや県民の主体的な活動を促進していく必要があります。

【参考】.....

【目指す姿指標の状況】



区分	指標数	主な目指す姿指標の名称
達成【A】	4	<ul style="list-style-type: none"> 産業廃棄物最終処分量 県民一人ひとりが自然や野生動植物を大切にしながら生活することに満足している県民の割合 有害大気汚染物質の環境基準達成率 公共用水域のBOD（生物化学的酸素要求量）等環境基準達成率
概ね達成【B】	0	
やや遅れ【C】	0	
遅れ【D】	2	<ul style="list-style-type: none"> 二酸化炭素排出量（1990(H2)年比） 一般廃棄物最終処分量
計	6	未確定指標1指標除く。

政策 社会資本・公共交通・情報基盤 ~「いわてを支える基盤」の実現~

【基本的考え方】人口減少・少子高齢化が進行し、投資余力も限られる中で、社会資本の整備、利活用を効果的に進めるとともに、持続可能な公共交通体系の構築や、県民だれもがその恩恵を同じように享受できる情報通信基盤の整備など、「いわてを支える基盤」の実現を目指します。

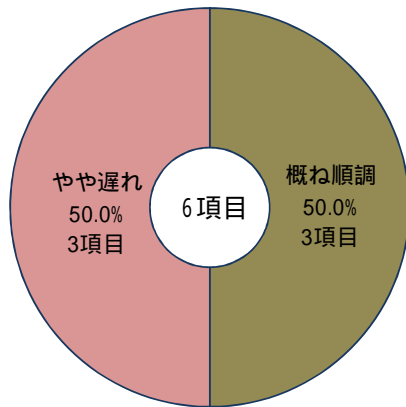
安全で安心な暮らしを支える社会資本の整備、社会資本の維持管理と担い手の育成・確保については、木造住宅の耐震改修など一部の取組に遅れは見られるものの、地震・津波・洪水・土砂災害に備える土木施設の整備や、学校施設の耐震補強、通学路の歩道整備等の日常生活を支える安全な道づくりは着実に進んでいます。また、県が管理する土木施設の維持管理については、維持管理計画に基づく効率的・効果的な取組や道路の草刈りなどで県民との協働による取組が展開されるなど、概ね順調に進んでいます。

また、公共交通の維持・確保と利用促進については、年間利用者数が減少しているものの、事業者の経営改善の支援や利用促進の取組により広域的な交通基盤が維持されており、概ね順調に進んでいます。

産業を支える社会資本の整備、豊かで快適な環境を創造する基盤づくりについては、高規格幹線道路ネットワーク等の整備や港湾・空港の利活用の促進、ユニバーサルデザインを取り入れた公共施設の整備、污水处理施設の整備等の生活排水対策などに取り組んだものの、日本航空の経営再建に伴う名古屋線運休や国内線の空いている時間帯でなければ国際チャーター便を受け入れられないなどハンドリング（空港の地上業務）の課題の影響等により、いわて花巻空港の利用者数が減少したほか、市町村の厳しい財政状況や景気低迷の影響等から、「污水处理人口普及率」が計画どおり進まないなど、やや遅れている状況です。

今後は、空港のハンドリング体制の見直しを早期に進め、ポートセールスやエアポートセールスなど港湾や空港の利活用促進に一層取り組むとともに、遅れが見られる下水道等の集合処理施設への接続率などの向上に向けて、より効果的な取組を推進していく必要があります。また、引き続き産業や安全で安心な暮らしを支える社会資本、豊かで快適な生活基盤、情報通信基盤の整備を着実に進めていくとともに、維持管理計画の策定による計画的・効率的な社会資本の維持管理の取組を進めていく必要があります。

【政策項目の状況】



評価	政策項目数	政策項目の名称
順調	0	
概ね順調	3	38 安全で安心な暮らしを支える社会資本の整備 40 社会資本の維持管理と担い手の育成・確保 41 公共交通の維持・確保と利用促進
やや遅れ	3	37 産業を支える社会資本の整備 39 豊かで快適な環境を創造する基盤づくり 42 情報通信基盤の整備と情報通信技術の利活用促進
遅れ	0	
計	6	

【総括】

37 産業を支える社会資本の整備【やや遅れ / ニーズ度 37 位】

- (1) 物流の効率化や広域的な観光への支援などを図るため、高規格幹線道路等の整備促進やインターチェンジへのアクセス道路、一般国道・県道の整備を推進したほか、国内各地や海外との交流や物流の促進を図るため、港湾や空港の整備を進めるなど、土木施設の整備は概ね順調ですが、港湾や空港の利活用促進については、いわて花巻空港の国内定期利用者数が、世界同時不況や平成 22 年 5 月の名古屋線運休等の影響で減少するなど、遅れとなっています。
- (2) 道路などの社会資本整備については、重点化・効率化を図りながら着実に進めていくとともに、引き続き港湾や空港の利活用促進に取り組む必要があります。また、いわて花巻空港の国内線の路線・便数の維持・充実や国際チャーター便のハンドリング（空港の地上業務）問題については、解決に向けて早期に取り組む必要があります。

38 安全で安心な暮らしを支える社会資本の整備【概ね順調 / ニーズ度 13 位】

- (1) 地震や津波、洪水、土砂災害に備え、緊急輸送道路上の橋梁や学校施設の耐震補強、木造住宅の耐震改修、防潮堤等の整備、河川改修やダム建設、砂防施設の整備を進めるとともに、関係市町村と連携し「地域の安全・安心促進基本計画（津波）」の策定など有事に備えたソフト施策にも取り組み、概ね順調です。
また、円滑な救急搬送を支えるための道路改善の取組や安全な通学路を確保するための歩道整備など、日常生活を支える安全な道づくりに取り組みました。
- (2) 宮城県沖地震や局地的集中豪雨災害に対応するため、取組が遅れている木造住宅の耐震改修の促進等に努めながら、ハード整備とソフト施策を効果的に組み合わせた対策を更に進めていく必要があります。また、地域医療への支援や安全な通学路の確保を図る観点から、引き続き安全な道づくりを進めていく必要があります。

39 豊かで快適な環境を創造する基盤づくり【やや遅れ/ニーズ度 14 位】

- (1) 都市計画による土地利用の適正な誘導や、道路等の都市基盤整備、岩手型住宅のブランド化、多自然川づくりの推進などの取組は概ね順調ですが、ユニバーサルデザインを取り入れた公共施設の整備や美しく魅力あるまちづくり、市町村の生活排水対策については、市町村の厳しい財政状況や景気低迷の影響等から指標の「汚水処理人口普及率」や「特定公共施設における整備基準適合率」が、計画どおりの進捗とならなかったことなど、取組に遅れが見られます。
- (2) 遅れが見られる下水道等の集合処理施設への接続率や「ひとにやさしいまちづくり条例」に基づく特定公共施設における整備基準適合率の向上に向けて、より効果的な取組を推進していくほか、平成 23 年度から一定の強制力を持った景観行政に移行し、岩手県景観計画に沿った取組を全県的に展開していく必要があります。

40 社会資本の維持管理と担い手の育成・確保【概ね順調/ニーズ度 29 位】

- (1) 県が管理する道路や橋梁、河川など社会資本の各分野において、維持管理計画を策定し、計画に基づく効率的・効果的・計画的な維持管理の取組を進めるとともに、道路や河川の草刈り、ゴミ拾いなど身近な社会資本の維持管理については、県民との協働による取組を進めています。
また、社会資本を良好に整備し、良好な状態で維持していくため、直接の担い手である建設企業を育成・確保する取組を進めています。
- (2) 社会資本の維持管理については、長寿命化計画を策定し、予防保全型の適切な維持管理を行うなど、ライフサイクルコストの縮減を図るとともに、県民との協働による維持管理の取組を更に推進していく必要があります。また、平成 16 年以降、建設企業の経常利益率がマイナスとなっている調査結果があるなど、建設企業の経営状況が悪化しており、公共事業に過度に依存しない建設業へと構造改革を進めていく必要があります。

41 公共交通の維持・確保と利用促進【概ね順調/ニーズ度 16 位】

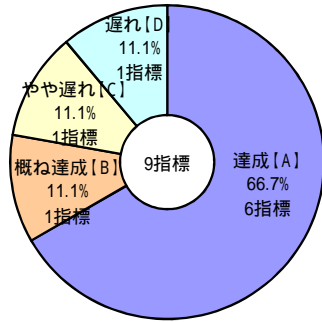
- (1) 広域的な交通基盤の維持確保のため、市町村と協力して、三陸鉄道、いわて銀河鉄道及びバス事業者の経営改善やサービス向上の取組を支援しながら、路線等の維持確保と利用促進に取り組みました。
- (2) 県民の日常生活に必要な、使いやすく安定した公共サービスを維持・確保するため、交通事業者に対して一定の財政支援をしていくとともに、公共交通の利用促進や地域の実情に応じた市町村の交通体系構築を支援していく必要があります。

42 情報通信基盤の整備と情報通信技術の利活用促進【やや遅れ/ニーズ度 44 位】

- (1) 通信事業者等に早期の基盤整備を働きかけるとともに、市町村による整備を促進しました。平成 21 年度に着手された事業の多くが平成 22 年度に繰り越されたことから、取組はやや遅れていますが、現在行われている事業により、情報通信基盤の整備は確実に進むと見込まれます。
- (2) ブロードバンド、地上デジタルテレビ放送、携帯電話の各分野の基盤整備を確実に完了させるとともに、新たな利活用を具体的に進める必要があります。

【参考】.....

【目指す姿指標の状況】



区分	指標数	主な目指す姿指標の名称
達成【A】	6	<ul style="list-style-type: none"> 都市間平均所要時間の短縮 内陸部～沿岸部（7ルート） 都市間平均所要時間の短縮 沿岸部の都市間（3ルート） 河川整備率 「地域の安全・安心促進基本計画(津波)」策定市町村数 市街地における主要渋滞ポイント解消・緩和率 早期に修繕が必要とされた橋梁の修繕率
概ね達成【B】	1	<ul style="list-style-type: none"> 三セク鉄道・バスの1人当たり年間利用回数
やや遅れ【C】	1	<ul style="list-style-type: none"> ブロードバンドサービス世帯普及率
遅れ【D】	1	<ul style="list-style-type: none"> 汚水処理人口普及率
計	9	

